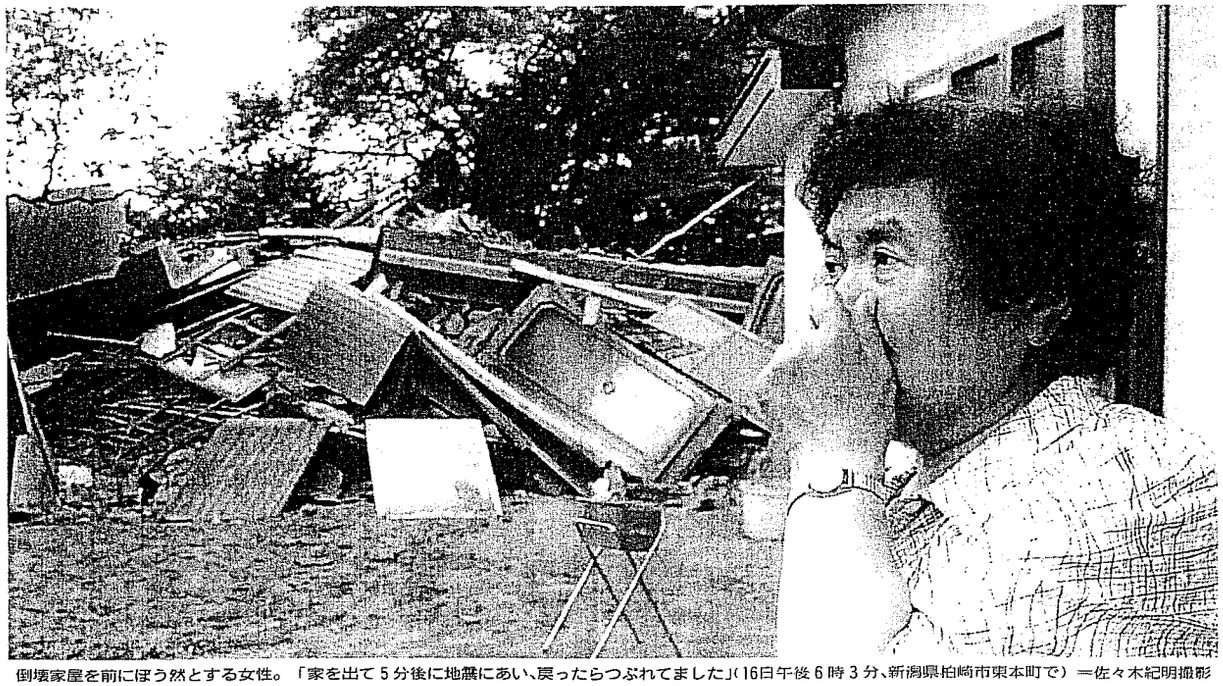
がれき下「息できない」

お年寄り次々犠牲

中越沖地震「すべてが一瞬」

立っていられないほどの激しい横揺れが、突然襲ってきた。16日発生した新潟県中越沖地震で、最大震度6強を観測した柏崎市と刈羽村。倒壊した木造家屋の下に住民が閉じ込められ、次々とけが人が運び込まれる病院は騒然とした空気に包まれた。クーラーもない体育館などの避難所では、高齢者や臨月を迎えた妊婦らが、余震におびえながら、不安な夜を過ごした。〈本文記事1面〉



倒壊家屋を前にぼう然とする女性。「家を出て5分後に地震にあい、戻ったらつぶれてました」（16日午後6時3分、新潟県柏崎市東本町で）＝佐々木紀明撮影

■救出劇

「バールを持ってこい」「救急車を早く呼んで」

柏崎市新花町で木造2階建て住宅2棟が倒れ、お年寄りの男女4人が下敷きになった。近所の約20人が、崩れた屋根に上がり、手で瓦やがれきを取り除いた。

近くにいた女性(70)は地震発生時、強烈な揺れを感じ、「振り返ったら土煙が上がり、家がつぶれていた」と言う。がれきの下からは「息ができない」という弱々しい声が聞こえた。全員が助け出されたのは約2時間後。救急車を待ちきれず、軽トラックの荷台に乗せて病院に運んだ。

■被災

「3年前の新潟県中越地震より強い揺れだった」。柏崎公民館長の酒井明さん(58)は、自宅の庭で草刈りをしていて立っていられずに、思わずビニールハウスにつかまった。

柏崎市の刈羽郡総合病院は、100人を超す応援医療スタッフらでごった返した。病院担当者は「野戦病院のような状況」と困惑していた。

自宅が全壊し、義母(75)が腰の骨を折って柏崎中央病院に運ばれた男性会社員(39)は「すべてが一瞬の出来事。あっという間に家が崩れた。着のみ着のまま逃げてきたので、靴さえない」と表情を曇らせた。

■避難所

避難所の柏崎市学校町の柏崎小学校体育館には夕方、約500人が避難した。臨月の主婦(37)は「病院は混乱していると聞く。余震も続き、陣痛が始まったらどうなるのだろう」と心配していた。

生後5か月の長男をあやす男性(31)は「ミルクを作ったり、消毒したりする湯がない。どうすればいいのかわからない」とぼう然としていた。蒸し暑い中、余震を恐れてヘルメットを脱がないお年寄りもいた。

緊急速報 間に合わず

柏崎、刈羽

今回の中越沖地震では、地震発生直後に大きな揺れが来ることを知らせる気象庁の「緊急地震速報」が、震度6強を観測した新潟県柏崎市や刈羽村などで間に合わなかった。震源が浅く、陸地に近かったために揺れの到達が早かったことが原因という。同庁によると、今回の地震で「速報」が出たのは、地震発生から7・1秒後。①新潟県中越で震度6強以上②上越と下越、佐渡で震度5強以上③長野県北部などで震度5弱以上――など、ほぼ正確な内容だった。

「ありがとう」言葉残し

救助後に死亡 独居の78歳

今回の地震で犠牲になったのは「自分の両親がまさかと」と絶句していた。

柏崎市新花町、中村エツ子さん(81)は20年以上前に夫を亡くし、一人暮らし。一人娘が2人の孫と毎週遊びにくるのを楽しみにしていた。同市下大新田、高橋三作さん(83)の親類は「10年前ぐらいから足が悪くなり、一瞬の事で逃げられなかったのだろう」と言葉を詰まらせた。

今回の地震で犠牲になってしまった8人はすべて、高齢者だった。

刈羽村井岡、五十嵐キヨさん(79)は、木造2階建ての自宅がつぶれた。近所の人が「ばあちゃん、ばあちゃん」と呼びかけたが、返事はなく、発見時は意識がなかった。近くの畑でキュウリなどの栽培をしており、この日も5分前に畑から帰る姿を近所の人が見ていた。孫の稔さん(34)は「あと5分、畑にいてくれれば」と悔しがった。

一人暮らしの柏崎市茨目、中村典子さん(78)はつぶれそうになった自宅玄関で、腕から血を流し、四つんばいになって助けを求めていた。近くの医師が応急処置をし、男性数人が病院に連れて行った。救出直後は「ありがとう、ありがとう」と話す元気があったが、次第に力を失っていった。

柏崎市西本町、下條克一さん(76)と保子さん(72)夫婦は連絡が取れず、消防隊が自宅に急行した。チェーンソーなどでがれきを取り除くと、1階寝室と茶の間から2人の遺体が見つかった。新潟県長岡市から駆け付けた長男の隆久さん(43)